

# インマヌエル中目黒キリスト教会

## 2013年8月18日 聖日礼拝

---

### 「恵みの世代に してください」

士師記11章29節-40節

コロサイ人への手紙

1章25-28節

河村 従彦 牧師



聖書朗読

(旧約聖書)

# 士師記11章29節-40節

第二版の聖書はP400～ / 第三版の聖書はP437～

(新約聖書)

# コロサイ人への手紙1章25-28節

第二版の聖書はP358～ / 第三版の聖書はP390～

聖書本文は新改訳聖書第三版  
(©新日本聖書刊行会) を使用しています。

29 主の霊がエフタの上に下ったとき、彼はギルアデとマナセを通り、ついで、ギルアデのミツパを通過して、ギルアデのミツパからアモン人のところへ進んで行った。

30 エフタは主に誓願を立てて言った。「もしあなたが確かにアモン人を私の手に与えてくださるなら、

31 私がアモン人のところから無事に帰って来たとき、私の家の戸口から私を迎えに出て来る、その者を主のものといたします。私はその者を全焼のいけにえとしてささげます。」

32 こうして、エフタはアモン人のところに進んで行き、彼らと戦った。主は彼らをエフタの手に渡された。

33 ついでエフタは、アロエルからミニテに至るまでの二十の町を、またアベル・ケラミムに至るまでを、非常に激しく打った。こうして、アモン人はイスラエル人に屈服した。

34 エフタが、ミツパの自分の家に来たとき、なんと、自分の娘が、タンバリンを鳴らし、踊りながら迎えに出て来ているではないか。彼女はひとり子であって、エフタには彼女のほかに、男の子も女の子もなかった。

35 エフタは彼女を見るや、自分の着物を引き裂いて言った。「ああ、娘よ。あなたはほんとうに、私を打ちのめしてしまった。あなたは私を苦しめる者となった。私は主に向かって口を開いたのだから、もう取り消すことはできないのだ。」

36 すると、娘は父に言った。「お父さま。あなたは主に対して口を開かれたのです。お口に出されたとおりのことを私にしてください。主があなたのために、あなたの敵アモン人に復讐なさったのですから。」

37 そして、父に言った。「このことを私にさせてください。私に二か月のご猶予を下さい。私は山々をさまよい歩き、私が処女であることを私の友だちと泣き悲しみたいのです。」

38 エフタは、「行きなさい」と言って、娘を二か月の間、出してやったので、彼女は友だちといっしょに行き、山々の上で自分の処女であることを泣き悲しんだ。

39 二か月の終わりに、娘は父のところに帰って来たので、父は誓った誓願どおりに彼女に行った。彼女はついに男を知らなかった。こうしてイスラエルでは、

40 毎年、イスラエルの娘たちは出て行って、年に四日間、ギルアデ人エフタの娘のために嘆きの歌を歌うことがしきたりとなった。

コロサイ1:25-28

25 私は、あなたがたのために神からゆだねられた務めに従って、教会に仕える者となりました。神のことばを余すところなく伝えるためです。

26 これは、多くの世代にわたって隠されていて、いま神の聖徒たちに現された奥義なのです。

27 神は聖徒たちに、この奥義が異邦人の間にあってどのように栄光に富んだものであるかを、知らせたいと思われたのです。この奥義とは、あなたがたの中におられるキリスト、  
栄光の望みのことです。



28 私たちは、このキリストを宣べ伝え、知恵を  
尽くして、あらゆる人を戒め、あらゆる人を  
教えています。それは、すべての人を、キリ  
ストにある成人として立たせるためです。

# 説教

「恵みの世代にしてください」

士師記11章29節-40節

コロサイ人への手紙1章25-28節

河村従彦牧師

# 序 士師について

# 1 エフタという人物

- A 気の毒な環境
- B 心のあり方
  - 1 勝ちへの執着
  - 2 罪責感
  - 3 間違った取り引き
- C 次世代への悲劇
  - 帰ってきた時の事件

# 1 エフタという人物

- D 悲劇の子であり、悲劇の親  
恵みの世代  
～エフタに言いたいメッセージ
- E 真実な対応  
憐れみの対応の可能性？
- F その後のエフタ

## II 恵みの世代

A 悲劇の子は、悲劇の父？

B 恵みの意味

連鎖を止めることができる

## II 恵みの世代

### C 恵みの出発点

#### 1 イエスさまの恵み

コロサイ1:25~28

#### 2 連鎖の終わり

~イエスさまの十字架

コロサイ2:13

#### 3 十字架による価値観の逆転

## **// 恵みの世代**

- D 恵みに生きる**  
自覚的な信仰とイエスさまの恵み



## II 恵みの世代

### E 次世代への重荷

#### 1 柔軟な視点で

次の世代に渡す (指導 → 指導)

次の世代に仕える (仕え → 仕え)

#### 2 いつでも、

だれにでもできる恵みの味わい

～次の世代を活かす発想へ

### III きよの祈り

「わたしたちを恵みの世代にしてください」

- A 時代を引き継ぎ、引き渡す
  - 1 神さまの恵みとあわれみ
  - 2 わたしたちの信仰のあり方
- B 現実目線
  - 1 自分の世代
  - 2 自分の問題
- C イエスさまのところに

持って行く世代<sup>18</sup>